■橋梁新聞　第1199号（2014年2月21日付）
トップが語る　～思い出の橋梁⑰～
（株）オリエンタルコンサルタンツ　野崎秀則社長　「東京湾アクアライン」

トップが語る 思い出の橋梁⑰

「東京湾アクアライン」

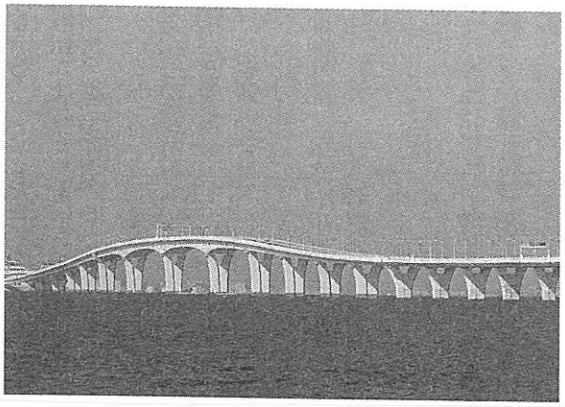
㈱オリエンタルコンサルタンツ　野崎　秀則 社長

「20代後半から足かけ5年、東京湾アクアライン橋梁部の景観検討に携わった」。ビッグプロジェクトに大規模な検討委員会が立ち上がる。「錚々たる委員の方々の中で、駆け出しの私が正しく駆け回った」。事業者・学識者・デザイナーなど、いろいろな立場にある専門家の意見をまとめ、調整する。

「景観を形だけの感覚的なものとして捉えるのではなく、論理的に説明できるように心掛けた」。当時、まだ珍しいデザインソリューションの考え方を先取りしていたともいえる。構造から、耐久性、走行性、経済性まで多面的に考慮し、なお、見る人をして唸らせる美しい橋梁となった。

この実績を経て、その後、インフラ整備にデザインからアプローチする、シビックデザインの発想へと同社を向かわせる。平成7年、景観デザイン室が立ち上がり、初代室長に就任した。

新人時代から「何でも屋」を自認する。設計、調査、情報処理、様々な仕事をこなしながら「ただ、良いものを創ろう」という『熱意』と『思い』だけだった」。そして、それは橋梁デザイン室の後継者達にも伝わり、多くの橋梁建設に結実することとなる。その中の1つである新湊大橋は24年度の土木学会田中賞を受賞している。

（川村淳一）

▼データ　事業名称＝東京湾横断道橋梁景観検討（その1）、諸元＝延長4385メートル、幅員29・3メートル、橋脚数42基、事業主体＝東京湾横断道路株式会社、実施時期＝昭和63年～平成3年